

2010年7月5日

東日本区1998～2011ヒストリアン 吉田 明弘

いよいよ松田俊彦区理事が登場

2010 2011 年度が始まり、松田俊彦さん(東京)が区理事としてスタートしました。

松田区理事の主題は、すでにご承知のとおり「豊かな奉仕! ~ 変化そして躍進」“Let's Serve Joyfully! ~Change and Everlasting Jump!”です。

松田俊彦さんは、1939 年生まれの 71 歳。総合商社の木材建材部門で活躍し、今は引退。1966 年、27 歳で福岡クラブに入会、1974 年に東京クラブに移り、以来、転勤のため名古屋クラブに 4 年間属した以外は、東京クラブで活動していました。TIFY'S、松本、会津、新潟、川越クラブの設立に関わるなど、クラブづくりで名を挙げ、一方では、リーダーシップ・トレーニングにも力を注ぎ、「LT のまっちゃん」としても知られる全国区です。

日本から選出された 国際・アジア地域の役員

2010 2011 年度は、日本から国際会長に藤井寛敏さん(東京江東)、地域会長に高田一彦さん(横浜)が就任しました。そのこともあり、国際役員、アジア地域の役員に日本からの多くの人材が占めています。

これは、すでに発信された『理事通信』(7月1日号)や近日発行される『ロースター』に掲載されるとおりです。

国際事務所のスタッフとして、国際書記長には、9月1日から5年間の任期で西村隆夫さん(東京センテニアル)の就任が決まっていますが、さらにコースインターとして、橋崎真美さん(姫路 Y3)も、ジュネーブで働くことになりました。

区大会の、ある光景から

第 13 回東日本区大会の引き継ぎ式で改めて気づいたことがあります。

区書記が長谷川あや子さん(東京八王子)から田中博之さん(東京)へ、区会計が宮内友弥さん(東京武蔵野多摩)から佐藤茂美さん(東京)へ、理事ホームクラブ会長が小山久恵さん(東京サンライズ)から笈川光郎さん(東京)へ、区大会ホストクラブ会長が望月喜代子さん(富士五湖)から赤澤睦子さん(松本)へ、同実行委員長が後藤昭子さん(富士五湖)から金井宏素さん(松本)へ引き継がれました。

お気づきですか? 女性が半分以上なのです。

拝啓 松田俊彦区理事殿

隅田川の川風が心地よい季節となりました。区理事にご就任され、早くもお忙しい毎日のことと存じます。

個人的な話になりますが、松田さんと私はほぼ同年生まれ、1966 年に、松田さんは福岡場所、こちらは東京場所が初土俵でした。新弟子時代は顔合せの記憶はありませんが、入幕した時には、松田さんは幕内上位。高見盛のようなパフォーマンスもあり、突っ張りからハズ押しの正攻派でした。やがて事業主任として大活躍して三役に。末は横綱との呼び声が高かったのですが、体調を崩すなどあって、綱取りは少し遅くなりました。

ワイズで 44 年間(YMCA は学生 YMCA から 53 年間) 変わらない情熱を保ち続けていることは凄いことだと思っています。

新しい年度、東日本区は多くの変化と課題に直面するように思えます。

国際大会が終わった後、次なる共通の目標

が求められること
国際とアジア地域に多くの役員を送り込んだため、国際の情報が身近になり、なすべきことが増えるであろうこと
実力のある女性会員が増えていること
2000 プロジェクトに伴って新クラブ、新会員の比率が高まっていること

新年度は、さまざまな価値観がぶつかり合う年度になるように思えます。

それは、次の躍進のためには避けて通れないステップでありましょう。そして、その中心的な役割を担うには、経験豊か、正攻法でブレがない松田俊彦区理事が、まさに適任だと思います。多彩な人材を擁する大部屋「東京クラブ」に所属することも幸いです。

早め早めに書き置きしてしまえば、日本相撲協会は大変なことになってしまいました。こちらは、堂々と横綱相撲でいってください。

Historian's View 「理事通信」と「区報」

ワイズの中でも情報格差が出てしまいます。

たとえば、新年度の始まる前の時点では、次期区理事がどういう方なのかということ、現会長と、3月の次期会長研修会に出席した次期会長くらいしか知らないのです。

これは、毎月発行される『理事通信』と、年に3回発行される『東日本区報』の性格に原因しています。

現在の『理事通信』は、ニュース性にも優れ、内容も多彩になって、そのままクラブプリテンに転載されることもあります。日本区時代には、『RDメモ』と呼ばれ、区理事が区役員やクラブ会長に送るもので、極めて理事の個人色の強いもので、その性格が今も残っています。

一方、『区報』は、区の機関誌ではありますが、実際には、毎年変わる区理事とスタッフが、担当するその年度に限った内容で編集するようになっています。

そのため、『理事通信』も『区報』も、編集に区理事の方針が色濃いにもかかわらず、かえっ

て逆に、自分のことや、自分の業績については、第三者が書くようには書けなくなっているのです。

時間的制約から、新年度最初に発行する『区報』は、新理事や区役員による方針を満載したものになります。その後に発行されるのが、直前理事による、前年度の総括報告となります。ですから出来事の時間な流れとは順序逆なので、何か古いニュースを読む感覚になるのです。

私たちが関心をもつ区大会の報告は後の号でないと知ることができません。区大会の報告などは、新年度第1号に掲載すればと思いますが、これまでの慣習と、前理事とホストクラブの思い入れがある区大会を勝手に編集することはできないという思いがあるのでしょうか。善意のナワバリとでも申しましょうか。

タイミングから言えば、『理事通信』がそれらの間隙を埋めれば良いのですが、ここには短信を多く載せる必要があるため、詳しく掲載することは難しいようです。

その人をよく知っているかいないかで、好意度がまったく違います。知られていれば、説得力が圧倒的に強まります。

現状では、新区理事は、ほとんどのメンバーに知られないまま、スターとしています。最近、直前理事の存在感が高くなっているような感じがします。これは、きっと、直前理事になった時が、認識度のピークになるからでしょう。

何か、区報の年度間の相互乗り入れとか、次期区理事の紹介は、現区理事の重要な役割するなどの工夫が必要だと思います。

大半が自分を知らない人たちを前にして、最近、好まれてよく使われる、「あらためまして、こんにちは」などと、のんきなことを言っている場合ではないのです。

訂正 前号の、「これまでの解散クラブ」の中に門司クラブを入れましたが、改名して現在の北九州クラブとして健在です。解散クラブには、福岡クラブ、高松さぬきクラブを追加します。